

分ける武庫川沿いの西宮市側に位置する甲武体育館内です。甲武体育館において稽古するようになってから三十数年が経ちます。

当流派の流祖は岩永源之丞正光（のち一柳斎と号す）です。

肥前国伊万里の郷士の長男として生まれ父について剣術、柔術を修行し、武者修行に出、宝暦二年帰郷し門人の育成に努めた。宝暦三年、各流の長所を取り入れ、新流を創始、心月無想柳流と称した。

初代から八代を経て、私は九代岩永源一宗家に師事し免許皆伝を授かりました。現在は柔術を主体としているので柳流柔術と称していますが、総合武術ですので剣術、棒術、小薙刀も稽古はします。柳流柔術の特徴としては当て身を多く用います。

稽古は柳流に必要な受け身、当て身そのほか歩法、重心移動等の基本動作から入ります。最初は重心移動が難しく上手く行かず手古摺る仕儀になりますが、数をこなすほかありません。

日本の伝統武術は型から入ることは周知のとおりですが、大切な型の中の本質を観ることが肝心です。日本伝統武術が連続と受け継がれてきたことは、流派の普遍的な型から生まれたことによるものです。崩しがあり、捌きがあり移動の中で崩し捌くことは勿論であります。道場の中だけが修行の場と思わず、日常の中で武術を活かすことを常に考えて行動することを伝えています。

危機意識は自身で養い常に先を観る事が肝要と考えています。習い覚えるということは基本が大事で型の重要性を深く認識することが大切です。

柳流柔術允可は初伝から中伝、目録、奥伝、免許皆伝と進みますが、ほとんどが口伝による指導です。

技で悩むことがあれば悩み、そのためには基本に回帰する事だと教え、基本に立ち返り初伝から稽古する事を勧めています。不要な所に

無駄な力を遣わず、自分自身に技の是非を問いかけ、勿論、指導者には是非を問うことが必要です。

心月無想柳流柔術・古武道甲武館の稽古日は、基本的には毎週日曜日、午前九時から十一時までです。然しながら昨今、体育館の使用頻度が高く、思うように稽古場所がとれずこの限りではありませんが、門下生一同、自身の稽古怠ることなく意気込みを持って励んでいます。

